

9 おわりに

令和元年12月に文部科学省より示された「GIGAスクール構想」。それから急激な勢いで子どもたちを取り巻く教育環境が変わりました。1人1台端末、高速大容量の通信ネットワークが整備され、クラウドを活用した学びが始まりました。そして令和3年1月26日には、中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）」が示されました。そこにはICTという言葉が152回も出てきます。それくらい、GIGAスクール構想によって実現する子どもたちの学びに期待が寄せられています。



しかしながら、令和4年1月7日に示された「教育データ活用ロードマップ」には、次のような記述があります。「デジタルやデータはあくまでも手段であり、目的はミッションに掲げた『誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会』の実現である。」と。

9 おわりに

さらに、「こうした社会において、次代を切り拓く子供達に求められる資質・能力としては、正解のない課題に対し、当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出す力」であるとしています。ステップ1では「とにかく使ってみよう」を合言葉に「授業の中でどのように活用するか」ということを考える段階でした。令和4年度のステップ2では、その「やってみたこと」の中で「続けてみてよかったこと」を共有し、その中で子どもがどのように学んでいるかを見取り、授業の改善に取り組んでいく段階です。端末を活用することで、個別最適な学び、協働的な学びが一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善ができていく。子どもたちにどんな力がついていっているかを考えながら、子どもたち一人一人が主役になる端末の活用について考えていきましょう。

令和4年3月



参考文献

中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」2021年1月26日

文部科学省初等中等教育局教育課程課「学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料」2021年3月

国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを 実現する授業改善の視点について」2020年6月

文部科学省「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き」2020年追補版

文部科学省「教育の情報化に関する手引-追補版-」令和2年6月

川崎市教育委員会「はじめよう かわさきGIGA端末のスクール構想～ステップ0・1」2021年3月

文部科学省 「GIGAスクール構想の実現について」2019年12月

川崎市総合教育センター「5分でわかる情報教育Q&A」第14版 2021年

川崎市総合教育センター「新学習指導要領に基づく授業改善の手立て」2018年

文部科学省「StuDX Style」 <https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

参考文献

文部科学省「小学校キャリア教育の手引き〈改訂版〉」教育出版 2011年5月

文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版 2011年5月

文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」教育出版 2011年5月

川崎市教育委員会「キャリア在り方生き方教育の手引き」2014年12月

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」2021年10月

川崎市教育委員会「かわさき共生 * 共育プログラムエクササイズ集」2018年3月

川崎市教育委員会「いじめ・不登校を生まない かわさき共生 * 共育プログラム効果測定活用ハンドブック」2019年3月

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課「外国人児童生徒受入れの手引き 改訂版」2019年3月

文部科学省 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議

「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] ~ 指導等の在り方編」 2008年

参考文献

デジタル庁 総務省 文部科学省 経済産業省「教育データ利活用ロードマップ」2022年1月7日

坂本旬ほか「デジタル・シティズンシップ」大月書店 2020年

白井俊「OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来」ミネルヴァ書房 2021年

高橋純「はじめての授業のデジタルトランスフォーメーション」東洋館出版社 2021年

佐藤和紀・三井一希「1人1台端末活用パーフェクトQ&A」明治図書 2021年

文部科学省「初等教育資料 12月号」東洋館出版社 2021年

平井聡一郎「GIGAスクール構想で進化する学校、取り残される学校」教育開発研究所 2021年

平井聡一郎他「Google Workspace for Educationで創る10X授業のすべて」東洋館出版社 2021年

稲垣忠・佐藤和紀「ICT活用の理論と実践」北大路書房 2021年

注意事項及び免責事項

・Chromebook, Google Workspace for Education, Google Jamboard, Googleスプレッドシート、Googleスライド、Googleドキュメントは、Google LLCの商標または登録商標です。商標は、略称を用いていることがあります。

作成者

☆は編集委員

指導・助言

野中 陽一(横浜国立大学教授) 原 克彦(目白大学教授)
小田嶋 満 石井 宏之 佐藤 公孝 大島 直樹 星野 康夫 田中 一平
荒木 孝之

情報・視聴覚センター

栃木 達也 ☆添野 雅美 関口 大紀
野崎 智一 鈴木 亮介 茅根 真帆
本竹 史弥 金谷 学 和田 俊雄
吉田 進 ☆新田 瑞江 石橋 純一郎
今 麻由子 杉本 昌崇 佐藤 晃
長澤 久美 山森 大史 草柳 譲治
岸本 孝司 福山 創 金子 裕輝
福田 有宇(長期研究員)

カリキュラムセンター

辰口 直美 宮嶋 俊哲 ☆椎名 美由紀
石井 芳弘 高橋 徹 ☆望月 隆
鬼頭 洋司 伊藤 悦子 伊藤 由佳子
松本 崇 岡部 啓子 山中 美奈子
松浦 信明 齊藤 宗則 門口 知弘
吉田 崇 野口 裕子 長澤 秀行
鈴木 正博 川城 晴奈



作成者

特別支援センター

伊藤 琢也 中村 めぐみ 盛光 秀之
清水 寿紹 鹿島 理子 中澤 英之
小原 日出子 ☆林 香織

教育政策室

二瓶 裕児 安斎 陽子 板橋 美由紀
☆青木 洋俊 佐藤 一輝 福岡 弘行
北所 邦美

指導課

細見 勝典 南谷 隆行 渡部 郁子
近藤 春樹 ☆伊藤 牧人

教育相談センター

小林 格 松崎 博晃 山田 礼子
☆栗原 秀明 小林 正史

